



2021年10月7日

日本鉄道労働組合連合会

北海道地方協議会「第3回定期委員会」開催

JR連合ビジョンの実現にむけて

一人でも多くの仲間とともに民主化の展望を切り拓こう！



JR連合北海道地方協議会は、10月2日、札幌市において、第3回定期委員会を開催した。JR連合からは、宮野勇馬企画部長と相良夏樹組織部長が出席した。

冒頭、挨拶に立った昆弘美議長（JR北労組中央執行委員長・JR連合副会長）は、JR北労組議員団の笠木薫氏が出馬した、9月26日投開票の旭川市長選の取り組みを振り返るとともに、来る衆議院議員総選挙における推薦候補者の必勝に向けて取り組む決意を述べた。また、今年度の運動方針について「JR北海道の単独維持困難線区に関して言えば、上下分離も視野に入れた事業範囲の見直しが必要。さらに、北海道新幹線開業に伴う並行在来線問題はJR貨物にとっても死活問題であり、貨物新幹線も見据えながら地域の協議会でしっかりと議論していく必要がある」と課題を提起し、「他労組と比較した際に、真に組合員や会社のためになる活動をしているのは我々であり、引き続き地道に取り組んでいこう」と呼び掛けた。

また、JR連合を代表して宮野企画部長が挨拶し、安全や政策、組織、政治に関する課題を提起するとともに、“JR連合ビジョン”の実現に向けて、あらためてその内容についての説明を行った。

議事では2021年度運動方針（案）が提起され、出席した委員からは、“工務関係の外注先における労働力確保”や“コロナ禍での組織活動のやりにくさ”等について発言があり、相互に意見交換を実施した。その後、運動方針が満場一致で承認され、新年度の運動がスタートした。